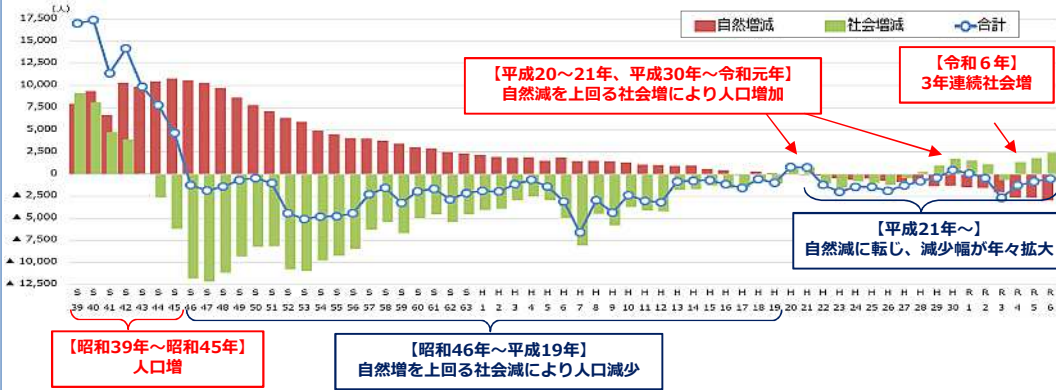


【概要版】人口動態等に関する報告書（令和6年度版）

○ 尼崎市の人口動態

資料：尼崎市統計書



人口増減数 (単位：人)						自然増減数 (単位：人)						社会増減数 (単位：人)					
	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年		令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年		令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
全 市	▲442	▲2,672	▲1,253	▲849	▲538	全 市	▲1,537	▲1,993	▲2,578	▲2,614	▲2,938	全 市	1,095	▲679	1,325	1,765	2,400
中央地区	▲46	▲167	▲258	304	39	中央地区	▲446	▲439	▲562	▲539	▲630	中央地区	400	272	104	235	591
小田地区	▲371	▲833	105	10	34	小田地区	▲374	▲466	▲585	▲504	▲616	小田地区	▲197	▲347	690	514	650
大庄地区	▲392	▲455	▲708	▲458	▲453	大庄地区	▲399	▲485	▲495	▲604	▲570	大庄地区	97	▲213	146	117	117
立花地区	29	▲546	▲385	▲151	▲189	立花地区	▲353	▲490	▲509	▲503	▲403	立花地区	382	▲54	124	352	792
武庫地区	▲51	▲409	▲473	▲110	▲375	武庫地区	▲43	▲110	▲230	▲250	▲332	武庫地区	▲21	▲299	▲243	140	▲38
園田地区	499	▲62	666	164	106	園田地区	78	▲3	▲197	▲214	▲182	園田地区	421	▲59	863	378	288

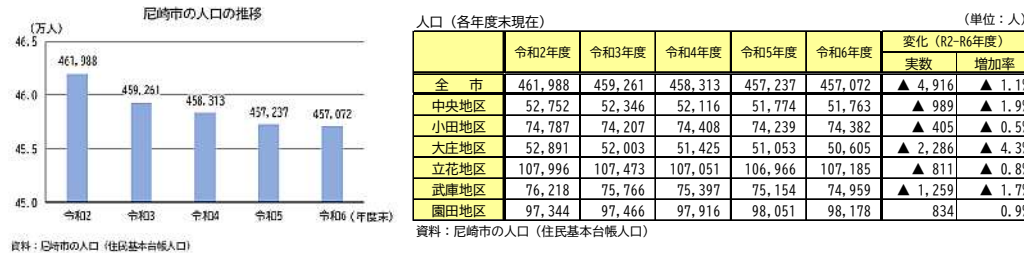
資料：尼崎市人口月報

○ 地区別人口の状況

1 人口（報告書 P.1～）

全市の人口は、令和6年度末（令和7年3月末）で、45万7,072人となった。最近5年間は減少が続き、令和2年度末より1.1%減少（▲4,916人）している。

地区別にみると、令和6年度末時点で、立花地区が10万7,185人と最も多く、大庄地区が5万605人と最も少ない。最近5年間は、園田地区が0.9%増加（834人）となったが、ほか5地区は減少し、特に大庄地区では4.3%減少（▲2,286人）となった。また、従来、北部3地区（立花、武庫、園田）が南部3地区（中央、小田、大庄）より人口が多いが、武庫地区の減少が進み、小田地区とほぼ同数の7万4千人台となった。



2 65歳以上の人口（報告書 P.4～）

全市では12万4,224人で、最近5年間は減少が続き、令和2年度末より2.6%減少（▲3,361人）している。地区別にみると、立花地区で2万9,008人と最も多い。また、最近5年間は6地区とも減少したが、特に、大庄地区が6.2%減少（▲1,043人）と減少率が高く、これに小田地区、中央地区が続いている。

65歳以上人口（各年度末現在） (単位：人)						
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	変化（R2-R6年度）
全 市	127,585	126,887	125,871	125,084	124,224	▲3,361 ▲2.6%
中央地区	16,030	15,927	15,748	15,611	15,412	▲618 ▲3.9%
小田地区	21,637	21,432	21,196	20,953	20,775	▲862 ▲4.0%
大庄地区	16,914	16,708	16,421	16,193	15,871	▲1,043 ▲6.2%
立花地区	29,549	29,461	29,234	29,084	29,008	▲541 ▲1.8%
武庫地区	19,852	19,842	19,888	19,881	19,818	▲34 ▲0.2%
園田地区	23,603	23,517	23,384	23,362	23,340	▲63 ▲1.1%

資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

○ 人口動態の状況

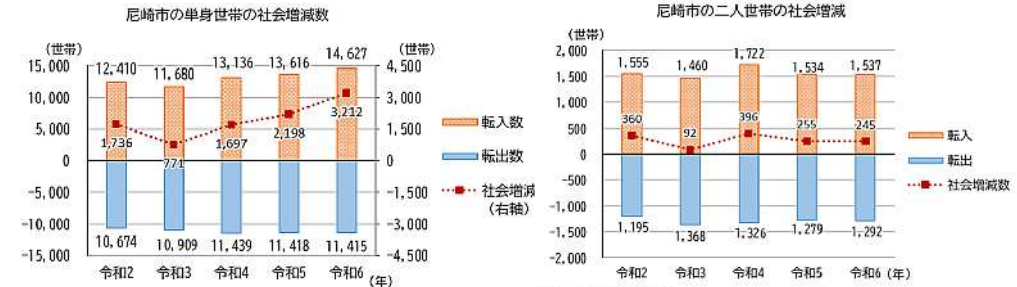
1 地区別単身・二人世帯における社会動態

(1) 単身世帯の傾向（報告書 P.23～）

令和6年の単身世帯の転入は14,627世帯、転出は11,415世帯で、3,212世帯の転入超過となった。転入は3年連続の増加、転出は2年連続の横ばいとなり、転入超過は令和4年より拡大が続いている。地区別にみると、令和6年は、6地区とも市外からの転入超過となった。立花地区で769世帯と最も多く、小田地区が754世帯と続いた。最近5年間では、大庄地区で令和3～4年に転出超過となったほかは、いずれも転入超過が続いている。

(2) 二人世帯の傾向（報告書 P.26～）

令和6年は、転入・転出とも前年よりほぼ横ばいとなり、転入は1,537世帯、転出は1,292世帯で、245世帯の転入超過となった。転入超過が続いているものの、超過数は2年連続で縮小している。地区別にみると、令和6年は、中央地区が市外への転出超過、ほか5地区は転入超過で、超過数は立花地区が84世帯で最も多かった。最近5年間では、武庫地区で令和3～4年、中央地区で令和5年以降、転入超過となったほかは、いずれも転入超過となっている。



資料：尼崎市都市政策課

●単身世帯の社会動態 (単位：世帯)					
	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
全 市	1,736	771	1,697	2,198	3,212
中央地区	427	294	262	367	628
小田地区	178	114	367	370	754
大庄地区	53	▲38	▲6	108	209
立花地区	490	234	491	584	769
武庫地区	111	13	84	64	222
園田地区	477	154	499	705	630

資料：尼崎市都市政策課

●二人世帯の社会動態 (単位：世帯)					
	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
全 市	360	92	396	255	245
中央地区	41	20	7	▲2	▲2
小田地区	50	22	157	93	71
大庄地区	62	2	30	18	19
立花地区	89	41	64	45	84
武庫地区	72	▲10	▲8	37	51
園田地区	46	17	146	64	22

資料：尼崎市都市政策課

2 10歳階級別、転入元・転出先別 社会動態（報告書 P.34～）

10歳階級別の社会動態をみると、20歳代、10歳代、50歳代で転入超過、その他の年代は転出超過の傾向にある。令和6年の転入超過数は20歳代は2,122人、10歳代は114人で、ともに3年連続で超過数が拡大した。10歳未満は300～600人台の転出超過で推移しており、令和6年の超過数は522人となった。

自治体別の移動状況をみると、最近5年間は、神戸市及び西宮市は一貫して転入超過、伊丹市及び東京圏は一貫して転出超過にある。令和6年は、神戸市636人、西宮市343人、大阪市98人の転入超過となった。

10歳階級別 社会動態（転入・転出） (単位：人)					
	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
総 数	928	▲456	891	1,282	1,600
0～9歳	▲569	▲613	▲540	▲368	▲522
10～19歳	171	50	99	105	114
20～29歳	1,309	1,016	1,352	1,587	2,122
30～39歳	▲151	▲434	▲47	104	▲10
40～49歳	102	▲222	28	▲93	▲6
50～59歳	100	▲16	253	93	56
60歳以上	▲35	▲236	▲252	▲145	▲154

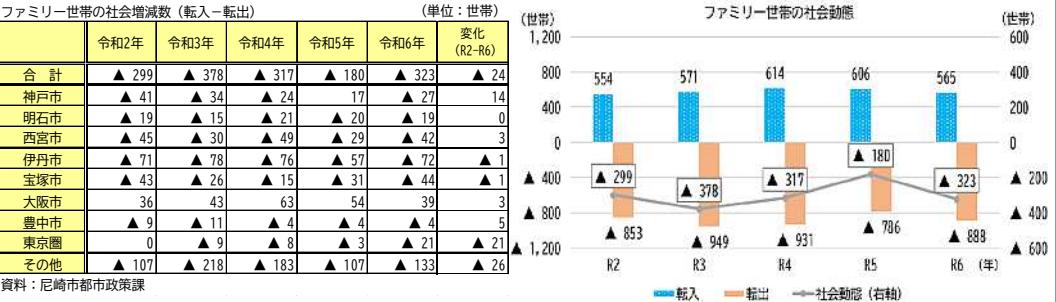
(両表とも)資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」
(注1)外国人を含む。(注2)「総数」は転入元・転出先・年齢が不詳の者を含み、各項の合計と合わないことがある。(注3)「東京圏」は東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、東京都の合計。

転入元・転出先別 社会増減数 (単位：人)					
	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
総 数	928	▲456	891	1,282	1,600
神戸市	422	250	561	692	636
明石市	▲37	47	▲21	▲36	11
西宮市	146	20	103	121	343
伊丹市	▲124	▲290	▲85	▲6	▲151
宝塚市	▲41	27	13	▲89	▲56
大阪市	▲13	▲123	209	134	98
豊中市	▲47	▲59	32	▲11	▲37
東京圏	▲421	▲484	▲404	▲567	▲480
その他	1,043	158	483	1,043	1,236

○ ファミリー世帯(5歳未満の子どもがいる世帯)の状況

1 転入元・転出先別 社会動態 (報告書 P.39～)

ファミリー世帯は転出超過が続いているが、令和6年の転出超過数は前年より79.4%増加(143世帯)の323世帯の転出超過となった。本市と人口の移動が多い自治体別にみると、最近5年間は、大阪市が一貫して転入超過、その他は概ね転出超過である。各市・地域別の超過数は、令和3～4年は「その他」への転出、令和6年は東京圏への転出が目立つ。また、神戸市は令和5年に転入超過となり、令和6年も転出超過は27世帯とやや低い値となっている。



2 町丁目別 社会動態 (報告書 P.44～)

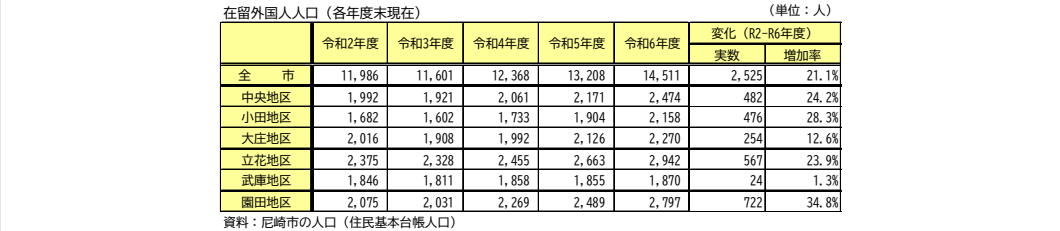
市内の町丁目別にファミリー世帯の転入・転出と市内間転居による増減の合計をみると、令和6年に転入超過となった地区では、立花地区の「武庫之荘東2丁目」、武庫地区の「武庫之荘4丁目」及び「武庫之荘本町1丁目」の順で超過が大きく、転出超過となった地区では、園田地区の「南塚口町3丁目」、「南塚口町1丁目」及び「南清水」、武庫地区の「南武庫之荘7丁目」の順で超過数が大きかった。令和4年からの3年間は、転入超過となった地区のうち、大庄地区の「大島2丁目」、立花地区の「尾浜2丁目」、園田地区の「若王寺3丁目」及び「食満5丁目」が3ヵ年とも上位5位内に入っている。転出超過の地区では、小田地区の「額田町」及び「長洲本通1丁目」、大庄地区の「大庄川田町」、立花地区の「上ノ島町3丁目」、武庫地区の「南武庫之荘1丁目」、園田地区の「南塚口町3丁目」が3ヵ年とも地区別の上位5位内となり、ファミリー世帯の転入・転出が盛な地域となっている。



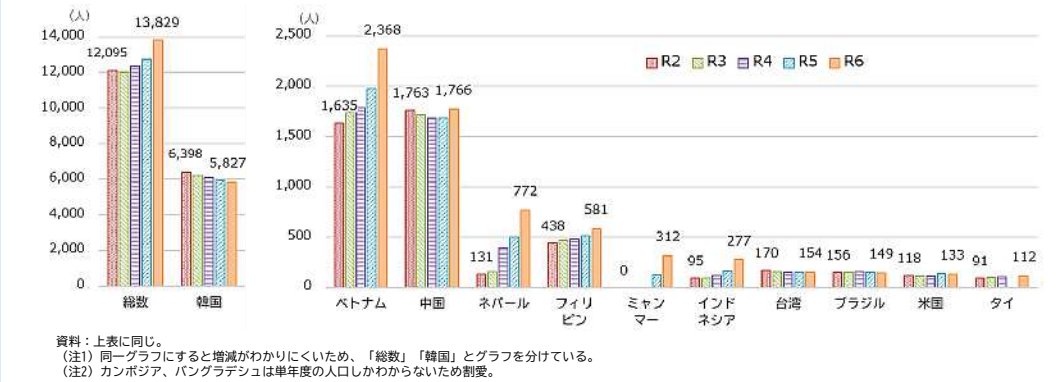
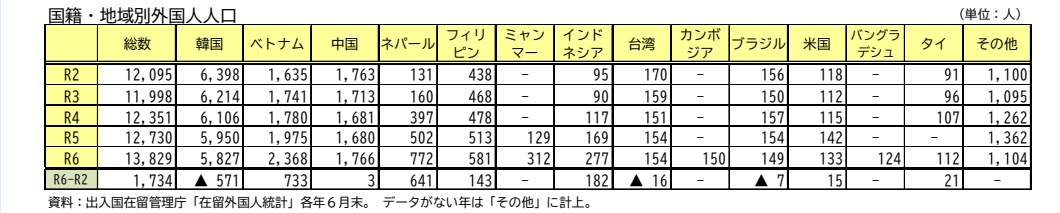
○ 在留外国人人口の状況

1 在留外国人人口 (報告書 P.14～)

令和6年度末時点の在留外国人人口は14,511人で、前年より9.9%増加(1,303人)した。令和2年度末と比べると21.1%増加(2,525人)している。地区別にみると、立花地区、園田地区、中央地区の順に多い。令和2年度末と比べると、6地区とも増加し、なかでも、園田地区で増加率が34.8%と高く、小田地区、中央地区、立花地区も20%台となった。



2 (参考)国籍別在留外国人人口



国籍別にみると、令和6年6月末時点で、韓国籍の人が42.1%と最も多い。ベトナム国籍の人は令和3年に中国国籍の人数を抜いて第2位の人数となった後も増加が続き、令和6年は2,368人と、前年より19.9%増加(393人)している。また、ネパール国籍の人は772人となり、令和2年と比較すると、489.3%増加(641人)となった。ミャンマー人は令和4年以前の人口は公表されていないが、前年より141.9%増加(183人)している。